

令和 7 年度 千葉県における「たちうお東京湾海域」に係る資源管理協定の取組の効果の検証結果（中間）

（１）千葉県東京湾海域におけるタチウオの漁業実態

千葉県東京湾海域においてタチウオは、まき網漁業、小型機船底びき網漁業、定置漁業、刺し網漁業などで漁獲されており、近年は漁獲量が増加している。

（２）資源管理の目標及び目標達成のための具体的な取組

目標（千葉県資源管理方針に定める資源管理の方向性）

当面の間、年間漁獲量を直近 5 年間（平成 28 年(2016)から令和 2 年(2020)まで）の平均値（199 トン・県内主要港）程度に維持し、資源の持続的な利用を図る。

該当する資源管理協定

「たちうお東京湾海域」に係る資源管理協定（以下、「協定」という。）は、下表のとおりで、3 漁協所属の約 24 名が、タチウオを対象としたそれぞれの協定に参加しており、このうち本検証の対象となるのは全協定となっている。

協定	備考	協定	備考	協定	備考
新富津		天羽		館山	

本検証の対象協定

自主的取組

漁業の種類	資源管理の取組	取組の内容	備考
小型機船底びき網漁業	休漁日の設定	定期休漁（火・土曜日）	新富津
	操業時間の制限、漁具の制限	漁具の制限：桁幅の制限 操業時間：内湾底びき網連絡協議会で資源状況等に応じて協議決定	
まき網漁業	休漁日の設定	12 月第 4 土曜日以外の毎週土曜日 毎月第 1・第 3 土曜日	天羽 館山
定置漁業	休漁期間の設定	8 月から 12 月のうち約 2 週間	天羽
刺し網漁業	休漁日の設定	天羽漁業協同組合魚市場公休日	天羽
つり漁業	休漁日の設定	天羽漁業協同組合魚市場公休日	天羽

協定に記載されている取組

小型機船底びき網漁業については、関係漁業者により内湾底びき網連絡協議会が組織されており、資源管理の取組は当該協議会で協議決定の上、実践している。また、漁業者と千葉県水産総合研究センターとの共同調査による資源状況結果等に合わせ、同海域で操業する神奈川県の小型機船底

びき網漁業者とも連携し、資源管理の取組を実施している。なお、上記の取組の他、資源状況等に合わせて内湾底びき網連絡協議会で協議決定した、年末年始お盆期間の休漁、禁漁期間の設定といった様々な取組を実施し、状況に応じた検討を行っている。

(3) 資源管理の取組状況

本県東京湾の主要漁協(目標における「県内主要港」と同義)のタチウオ漁獲量は近年増加傾向で、2019 年以降は 200 トン以上を維持しており、2024 年は 269 トンで、資源管理の目標において維持するとした平成 28 年から令和 2 年の漁獲量の平均値を上回っている。また、県の令和 7 年(2025)度資源評価では、現在の資源動向は増加、資源水準は高位となっている(図)。協定参加者による検証(以下、「自己点検」という。)では、全地区で漁獲努力量は維持していると判断されているものの、漁獲量と CPUE(単位努力量あたり漁獲量)は、天羽地区ではまき網漁業で減少、つり漁業及び定置漁業で維持、刺し網漁業では増加と判断され、他 2 地区では 1 地区で維持、1 地区で減少と判断され、地区ごと漁業種類ごとに異なる判断がされていた。また、魚価(単価)についても、天羽地区ではまき網漁業及び定置漁業で維持、つり漁業及び刺し網漁業で上昇していると判断され、他 2 地区では 1 地区で維持、1 地区で上昇していると判断され、こちらも地区ごと漁業種類ごとに異なる判断がされていた。

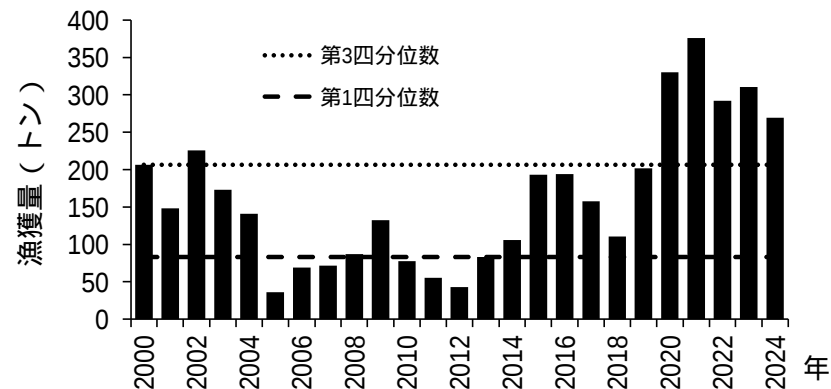


図 東京湾主要漁協におけるタチウオ漁獲量の経年変化(千葉県調べ)

(4) 資源管理の効果を高めるための協定の改善・高度化の検討

タチウオについては、自己点検では漁獲努力量が維持されていると判断されている。2024 年は資源が高水準となっており、漁業者がこれまで実施してきた資源管理の取組が資源維持の一助になっていると考えられる。一方で、自己点検では漁獲量や CPUE が減少しているという実感から「取組の効果は感じない」としている地区、もしくは地区における一部漁業種類が存在しており、効果を感じられない要因は海洋環境による影響と判断されていた。実際に、協定参加者の主漁場である東京湾は、内湾を中心に貧酸素水塊等の海洋環境が漁業に大きく影響する海域であることも踏まえると、資源状況が良好であったとしても海洋環境が影響して、漁業種類によっては獲れにくいなどの影響が及んでいる可能性が否定できない。

このため、資源の有効利用を図るためには、現在の取組を継続していくとともに、今後の海洋環境の変化や資源状況を注視し、状況に応じた対応を検討していくことが重要と考えられる。